

『第三王国で感じられない変化』抄訳

—第3部、第4部—

松本 美千代

要 旨

スーザン＝ロリ・パークス (Suzan-Lori Parks, 1963-) の戯曲『第三王国で感じられない変化』(*Imperceptible Mutabilities in the Third Kingdom*) の第3部と第4部を抄訳したものである。本作品は1989年にブルックリン・アート・カウンシル (BACA) にて初演され、ニューヨークタイムズ紙のメル・ガッソウが「劇中何度も変化や転換があり、劇作家の独創性と人間性を証明するもの」と高く評価し、オビー賞に輝いたパークス初期の作品である。題名にも表れている通り、実験的で革新的な手法を用いた重層的作品であり、パークス特有の象徴効果や、同音異義語を用いた言葉遊び、ジャズをヒントに考案された反復修正技法などの原型が数多く見られ、彼女の他作品を考える上で重要な作品である。

まえがき

『第三王国で感じられない変化』は中心的な3つのストーリーの間に「第三王国」という詩的コーラス部が二回挿入される構成になっている。「カタツムリ」と題された第1部には、自然主義者という白人の博士によって「駆除」されようとする三人の黒人女性と彼女たちの恐怖が描かれている。第2部の「第三王国」は、奴隷貿易における中間航路の記憶と表象をモチーフにしたコーラス部である。本論で抄訳する第3部の「オープンハウス」は、サクソン家の乳母および奴隷として仕えたアレサというアフリカ系アメリカ人女性を中心に展開する。彼女は死に際のもうろうとする意識のなかで、1865年の奴隷解放宣言により奴隷契約が終了した後の半生を、走馬灯のように回想する。続く第4部は、第2部のテーマをリフレインさせるコーラス部であり、第5部には、軍隊に所属して白人社会で地位を得ようと邁進するアフリカ系アメリカ人の父親とその家族の悲劇が描かれている。

コーラス部が繰り返されるように、反復の概念は作品における必要な劇的要素である。この技法は反復修正技法と呼ばれ、特定のフレーズやイメージ、対話のセットを時や、場所、人物を変えて登場させ、時代や個人を超えて永続するアフリカ系アメリカ人の表象を舞台化するパークス特有の技法である。これらの反復的フレーズは断片的で一貫性のない形で登場し、一方物語も秩序立てて直線的に進行するものではないため、作品は暗号のように難解で理解しにくいものになっている。しかし過去が不意に再生され、奴隷制度時代のイメージが唐突に浮上し、句読点なく文章が続いていくといった劇的手法は、アフリカ系アメリカ人が日常生活で日々直面する差別や不安の瞬間を捉えた表現であると解釈できる。ジャズにおける楽句の反復演奏のように、アフリカ系アメリカ人への差別は繰り返し

彼らの意識の中で再生される。パークスはこのような整合性なく錯綜する意識の流れを、夢や思い出の想起、詩的なシークエンスといった設定、またアフリカのナリズムと旋律を用いた儀礼的要素によって伝えようとしている。

パークスにとってアフリカ系アメリカ人が体験した奴隷としての過去の記憶は、彼らだけではなく、彼らを取り巻く白人やアメリカ人の意識の中に深く浸透した根源的な問題である。奴隷制度の記憶が薄れつつある現代アメリカにおいて、いまだに消失しない人種問題は、単に白人と黒人の二項対立の解消や、白人への抗議によって解決する問題ではなく、アメリカにおける「黒人」という表象について考えなおすべき問題である。「黒人」=奴隷という歴史的表象は社会のいたるところで再生され、否定的な意味での「黒人」の想像的表象は蔓延している。作品ではそれらを、アフリカで商品として捕えられ、奴隷としてアメリカに連行された過去や、奴隷制時代の女性奴隷の体験をコラージュのようにつなぎ合わせることによって、集合意識としての過去が個人のアイデンティティの形成や心理的「解放」に影を落としている様子を描いている。黒人蔑視の偏見は、白人だけではなくアフリカ系アメリカ人の深層心理にも根深く存在している。彼らはアフリカでの独自の文化や言語を喪失したのち、奴隷制終了後も教育や雇用など不寛容な社会のなかで経済的に疎外され、自尊心を失い、アイデンティティの喪失に苦しめられるという永続的な心理的負担を背負ってきた。「修正」という語が劇中、多様な意味で登場するように、これには1865年に提案された奴隷制廃止および奴隷解放についての修正案への言及だけではなく、観客の目の前で「黒人」と「奴隷」の歴史を再生することによって、アメリカにおける「黒人」の表象を修正しようとする意図が含まれている。

メル・ガッソウによると第3部のタイトル『オープンハウス』とは象徴的には開胸手術の意味で、死に瀕する元奴隷の人生と記憶を探求している。悪夢のようなイメージのコラージュにより、主人や主人のために育てた白人の子どもたちによって踏みにじられることになるプランテーション時代の過去を追体験する」とされる。オープンハウスには、自宅開放日、あるいは物件の売り出しという意味もあり、彼女の売り出しと、黒人奴隷の意識を披露し開放するという皮肉的な意味が含まれる。

アレサは、アングロ・サクソンを象徴するブランカとアングロという白人の子どもの面倒を見るサクソン家の奴隷である。1865年の奴隷解放宣言が布告され、アレサが自由になる日、子どもたちは母親代わりであったアレサがいなくなり、自分たちの生活が不自由になることを恐れて彼女を責める。アレサは子どもたちの母親であることも示唆されており、一家（アメリカ）が彼女（黒人）をあらゆる意味で利用し尽し、白人が彼らの犠牲の上に豊かさを享受したことを想像させる。一方、長年忠実な奴隷に徹してきたアレサも奴隷契約終了を手放しで喜んでいるわけではない。なぜ出ていくべきなのか、どこへ行くべきなのかもわからないまま、ただ不安に駆られている。子どもたちを育て、妻代わりの役割を果たしてきたものの、配偶者としての法律的な書類は存在せず、経済的に自立する支援もないまま解放されるアレサは、アイデンティティの混乱と所属感の喪失にさいなまれる。これに追い打ちをかけるように、のちに成長したアングロとブランカに久しぶりに面会するアレサは、子どもたちに感謝されるところか存在を忘却され、彼らに再度奴隷化される歴史の繰り返しに直面することになる。

アリサの臨終の記憶は、家畜同様に船に詰め込まれ、アフリカからアメリカ大陸に強制移送される中間航路の歴史的記憶と混ざり合う。身動きができないほど過密で劣悪な環境の奴隷船を生き抜いた後、アレサは抜歯されることになり、キリスト教の神と聖書を信じるようにと伝えられる。しかし青い目の神は悲嘆する彼女に、神の王国での居場所を保証してはくれない。劇中、book という語は様々な意味で用いられ、書類、聖書、帳簿、規則、売買注文帳、登録簿、記録として残された事実などの意味で使われている。アレサがいみじくも黒人用と白人用の book は違うと言うように、白人が占有する記録の中に言語を喪失した黒人の証を見つけることは難しい。白人の子どもたちの笑顔を写真に収めようとアレサが奮闘するシーンに象徴されるように、黒人の努力や存在は歴史の中で語られることなく、沈黙を強いられてきたのである。

作品の第4部となる「第三王国」(繰り返し)は奴隷として運ばれる中間航路の恐怖を寓話的に描いたものである。彼らはアフリカ大陸にいた自己から強制的に引きはがされ、過酷な中間航路における輸送船の中でサメの餌食となるか、飛び降りて自死するかといった恐怖をさまよう。そして生き延びて新大陸の崖に連行される過程で、あきらめを知り、隷属的な新たな自我が生まれていく。古い自分に別れを告げ、だからと言って新しい自己にもなりきれない。第三王国にある中間的な自己を自分として受け入れざるを得ない空虚感は、抜歯されたアレサの歯茎の穴のように、骨抜きにされたアフリカ系アメリカ人の根源的な寄り添なさを表現している。凄惨な過去を表現しながらどこか陰鬱でないのは、パークスがこのコーラス部をアフリカ人がアフリカ系アメリカ人となる一種の儀式的な変身あるいは再生の過程として描いているからである。この変化は第4部の throw という単語に現れている。第4部の冒頭、奴隷は船酔いで Throwing up(吐きそう)と述べるが、途中船上で throwing は身投げの意味に変わり、第4部終盤には throwing a kiss に変化する。この語には、奴隷が役割を嫌悪し、拒絶するが、最後はその役割を演じることを選択する心情の変化が投影されている。その意味で第4部は白人の用意した台本に基づいて虚構的自我を演じるアフリカ系アメリカ人の演劇性についての考察とも言える。

第3部：オープンハウス

A.

ダブルフレーム (スライドを2枚ずつ見せる) のスライドショー：アレサがアングロとブランカを抱きしめている。次のようなスライドが進行する側ら、会話が始まっていく。(1)彼らに表情はない。次に(2)彼らはほほ笑む。そして(3)彼らはもう少しにっこり笑う。次に(4)さらに大きくほほ笑む。ほほ笑みの顔のアップが続く。俳優たちは舞台が薄暗くなると話し始め、スライドが上部で光る。

アレサ：笑ってください、さあ、笑ってください。

アングロ：ねえ、人形。人形は？ボクの人形は？ねえボクの人形はどこ、とってきてよ。今人形が欲しいから。

アレサ：ブランカ様？ちょっと可愛くニコツとしてくださいませ。おねがいします。

ブランカ：私もお人形が欲しい。とってきて。

アレサ：すてきな真っ白な歯をお持ちなんですから、ブランカお嬢様。歯が見えると思いいに残るスマイルになるんですよ。

アングロ：アレサは人形をとりにつかないよ。とってこないのはお人形にご飯をあげていないからだよ。

アレサ：笑ってくださいまし、アングロ様。ちょっと歯を見せたらみんながあつといます。

ブランカ：アレサが着替えさせていないからお人形を持ってこないんだ。お人形は汚れたまま。着替えてないご飯たべてない換気は悪い陽に当たっていない。

アングロ：今日はアレサの最後の日。だからいい加減になっているな。

ブランカ：今日が最後の日なの、アレサ？

アングロ：はい。

アレサ：パパ様のために笑ってあげて下さいまし。チャールズ様、私には笑わせられませんです。

ブランカ：そうなの？今日が最後なの？！

アングロ：アレサの荷物が貨物車にあっただろ？

ブランカ：ねえアレサ、どこへ行くの。あたしのお人形をとってくるんでしょ。

アレサ：ブランカお嬢様のような歯が私にもあったらいいんですが。ほんとに真っ直ぐで、きれいな歯です。真っ白でかわいらしい。—はい、チャールズ様。頑張っているんですが。アングロ様、笑ってください。笑って見せてください。

ブランカ：行っちゃうんでしょ。ねえ、行っちゃうんでしょ！

アングロ：答えないとだめだよ。

ブランカ：答えないとだめだよ。

アレサ：はい、お嬢ちゃま。行くです。行くことになりました。

ブランカ：どこへ？

アレサ：遠くへです。ずっと遠くへです。

アングロ：何しに。

アレサ：わからんです。行くことになったです。フルコースを平らげたり、踊る相手を見つけるためです！生きるために行くことになったです。と思います。

ブランカ：生きるため？お人形をとって来てよ。あたしのお人形もバイバイしたいから。お人形の中身が出ちゃったら私のお人形だれが縫ってくれるの？

アングロ：男の子の人形をだれがせっかんするの。男の子の人形はお行儀が悪いんだ。

ブランカ：お人形の髪をだれが三つ編みにしてくれるの？お人形の髪の毛は私の三つ編みと同じじゃないとだめなんだから。

アングロ：だれがタンスをきれいにするの？だれが僕たちのタンスをきれいにするの？洋服を着替えさせてくれないからアレサのところには行けないよ。汚いままでいるんだ。だって着替えさせてくれないしご飯も食べさせてもらえないし、空気も入れ替えてもらえないし、お行儀も悪いし、三つ編みもないし、陽にも当たらないで過ごすんだ。

アレサ：お母様がみんなやったださると思いますよ。

ブランカとアングロ：だれだって?!?

アレサ：わかりませんです。笑ってください。ブランカさん、アングロさん。さあ。白いかわいい歯
を見てみましょう。

(カメラのシャッター音)

B.

舞台。アレサ・サクソン夫人

アレサ：6，7，8，9。すっ（アレサの癖，つばを吸う音）。10，11，12，13，14，15，16。すっ。

17，18，19，20，21。とちょっと。すっ。すっ。大きさが分からないといけない。ほら。大きさがきっちりと分からないといけない。すっ。人が来るんだ。^(Hole)欠陥だらけの家一杯に⁽¹⁾。親戚たちだろうか？関係ない人たちかもしれない。何人の親せきを入れることができるんだろう。入るだけ全部。知らない人たちは何人ぐらい？サイズにもよるな。すっ。スペースのサイズ。すっ。親せきの人数のサイズにもよる。知らない人たち人数のサイズにもよる。女よりも男を連れて来い女が男より一人多いぞ結局もう一人多いぞ家畜どもを連れて来いすっ詰めれるだけ家畜を連れて来いすっ⁽²⁾。詰めろ。すっ。すっ。うむ。すっ。後ろから数えろ：ちび小僧21，20，19，18，17，16，15，14，13，12，11，10，よし，すっ。3，2，すっ，1と1。よし。21と1と1。とちび小僧。すっ。すっ。32と半。

ミス・フェイス：注1⁽³⁾：人間を積んだイギリスの奴隷船，ブルックス号の船の容量は，だいたい300 cm²だった。と James A. Rawley の *The Transatlantic Slave Trade*, G. J. McLeod Limited 出版1981年，283ページに書いてある。

アレサ：32と半。すっ！どうやって挨拶すればいいんだろう。どうやってこんにちはの挨拶するんだろう。すっ。よし。スマイルで挨拶だな！ほれ。まだニヤニヤが残っているな。うん，まだある。すっ。すっ。32とちび。32半。ミス・フェイス⁽⁴⁾を呼んだ方がいいな。ミス・フェイス？

ミス・フェイス：なんでしょうかあ。

アレサ：すっ。2のDサクソン夫人です。

ミス・フェイス：はい，サクソン夫人。回復しているかって？もう血はとまりましたよ。このまま止まってくれるといいのですが⁽⁵⁾。

アレサ：横幅を知りたがっていましたね。

ミス・フェイス：穴が治っているといいんですが。

アレサ：32と半。

ミス・フェイス：それは事実なの？

アレサ：すっ。そうです。事実です。横が約32フィート半。それが真実です。

ミス・フェイス：はいはい。

アレサ：私にお客さんが来るって帳簿に書いてあると言っていましたね，フェイスさん。ここだった

ら3人ぐらいまでは入るんですけど。

ミス・フェイス：3人ね。書いておきましょう。計算に基づいてね。サクソン夫人。

アレサ：計算に基づいてです。すっ。

ミス・フェイス：サクソン夫人？私が計算すると—600人は収容できる。いざとなれば600人。注2：空間的には451人分しかなかったが、600人の奴隷がブルックス号で輸送された。と同上14ページに記載。

アレサ：フェイスさん、このなかに600は無理です。

ミス・フェイス：事実をくれればいいの。私が事実に基づいて書きますから。私は本に従って、事実から、立ち上げて、書くんです。600人入ります。詰めて入れればいいんです。

アレサ：フェイスさん—すっ—フェイスさん—

ミス・フェイス：サクソン夫人。あなたは抜歯することになっていると帳簿^{book}にありますよ。サクソンさん、抜歯しますよね？歯茎のほうは準備ができていますよ。歯茎は直りますから。まさか価値ある2.5cm²を持って帰ろうなどと思っ^てはいませんよね。サクソンさんはそんなことはしませんね。あなたは確かに事実をありのままに伝えた。もちろんそうです。いいですか、「価値ある2.5cm²を持って帰ろうとする者は、最も高いところに割り当てられた席を失う者」ということはご存知ですね。サクソンさん、修正2.1条をご存じでしょう。聖書^{book}に慰みを求めなさい—そして、歯にさよならを告げて。ブザーで私を呼ばないように。

アレサ：すっ。すっ。2対1。

ミス・フェイス：注の3：奴隷船内の平均的な奴隷の男女比率は2対1であった。

アレサ：「そして彼女は上を向いて神を見た。神は彼女が跪いているところを見下ろした。彼女はこう言った。『神様、神様の王国にある私の居場所がまたもや強奪されない保証はありますか。だってそちらのすばらしい王国では場所を求めている人がたくさんたくさんいるんでしょう。そういうもらえるまっとうな資格のある人がたくさんいるんですよね』」すっすっすっ！すっ。「すると神は彼女を見下ろして」すっすっすっ！「すると神は彼女を青い目で見下ろして、神の顔には素敵な一歯のきれいな素敵な笑顔が輝いていて、「チャールズ、恐れるな。私の王国での居場所は確保された」すっ。すっすっ！チャールズって？フェイスさん？

ミス・フェイス：ブー！ブー！

(ブザー音)

C.

ドリーム・タイム。チャールズが登場する。ブランカとアングロはブザー音をまねてハミングする。

アレサ：すると神は彼女を見下ろして—

チャールズ：すると神は彼女が跪いているところを見下ろした。

アレサ：神様、どんな証拠があるんでしょうか。私は居場所が欲しいんです。

チャールズ：場所は与えられる。書類を持っているか？

アレサ：R-S スラッシュ26でしょうか⁽⁶⁾。

チャールズ：どれどれ。「チャールズ」とありますね。「チャールズ・サクソン」

アレサ：チャールズという主人がいたんです。

チャールズ：あなたが「チャールズ」とは変な名前ですね。サクソン夫人。

アレサ：夫の名前です。今は別れています。

チャールズ：離婚ですか？

アレサ：離婚？

チャールズ：法律で規定された結婚における「別れ」のことですよ。では法律上ではないんですね。

非婚ということですね。なるほど。チャールズさん、合法的に結婚しましたか？ 規則に従って
のご結婚ということですが。「ほうきの上を飛んだ」とかそういう下らないことはありません。
それとも別居だったかな。別居。別居でいいですか？ では別居なんですね？ 彼についていくとい
うことですね。

アレサ：夫は一夫は死んだんでございますです。

チャールズ：なら、「はい」の欄にチェックを入れておきましょう。ここにサインをしてください。「X」
でいいですから、チャールズさん。

アレサ：あの、わからないんですが。

チャールズ：後にね—

アレサ：もしかすると。

チャールズ：あなたの後に列ができていますよ。

アレサ：もしかすると—いくべきなのかな—たぶん—たぶんしばらくここにいられる。ここに。

チャールズ：帳簿^{book}によればあなたの期限は切れました。更新することはできません。

アレサ：私の居場所は？

チャールズ：保証されています。

アレサ：どこに。

チャールズ：行きなさい。

アレサ：どこへ。

チャールズ：行くんだ、ほら、前へ進むんだ！

(ハミングが大きくなる)

D.

ブザー音のハミングが本当のブザー音に変わる。ミス・フェイスがアレサの歯を抜くための大きなベ
ンチを持って登場する。

アレサ：シスター・フェイス、何本抜かれるんですか。

ミス・フェイス：開けて。全部ですよ。サクソンさん、罰だと思っはいけません。一皮むける大掃
除のようなものの一環だと思えばいいんです。古きは抜け、新しきに交換される。蛇の新しいスー

ツのようなものです、サクソン夫人。あなたの新しいのが到着したらね、新しいのがもうすぐに来ますからね、聖書に約束されています、きっと場所はあると。場所を作ったんですからね。抜歯しなかったらどこへ行くんですか。私たちの場所を確保しようと、今この瞬間にも抜歯している人たちがいるんです。抜歯しなかったらどこへ行こうって言うんです。みんなはどうするんですか。どうなるんですか。誰が生き延びてこれを伝えますか。古きは抜かれ新しきが代わりに興る。それに、歯を引っっこ抜かなかったら写真に撮れないでしょう。記録に残るためには写真を撮られないと。サクソンさん、歴史の一部になると思えばいいんです。あなたは偉大な歴史の完全なる一部になるんです。サクソンさん、そう言って。忘れられたくはないでしょう。

アレサ：すっ！ニコッと笑いでご挨拶するつもりだったんだ。

ミス・フェイス：口を開けさえすればいいんです。開けて。そうです。死ぬ直前は驚く顔が一番よく似合うんだそうよ。あああって！開けて。ふむ。次は犬歯ね。聖書に慰みを求めなさい。本に道理を求めなさい。本を見つけ見つけ見つけるの。本はどこ。ほら探してきなさい。探して。ほら、立って。

アレサ：すっすっすっ。

ミス・フェイス：本から読むのよ。

アレサ：すっすっすっ？

ミス・フェイス：ほら。

アレサ：すっ。すっすっすっ？「女性は病床に伏し、彼女の歯茎は軟化して血が出ていた。彼女の元に神が現れ、慣例に従い、冷たい蛇口から水を滴らせながら、そこにできた水たまりを歩いていく。神は病床の彼女を上から見おろして、タオルで拭きながらこう話した。『チャールズ、なんでおまえなのだ……』」すっすっすっ！「チャールズ」またか。すっ。なんで神は「チャールズ」って呼ぶんですかね、フェイスさん？チャールズっていうご主人様がいたことは確かですけど、本にアレサ・サクソンの主人チャールズってなんか書いてあるんですかね。でも。チャールズというご主人がいたからって、そう呼ばれる理由もないと思うんですー

ミス・フェイス：開けなさい！名前通りに名づけられるんです。彼からその名前をもらったんです。本によればチャールズは死んでます。残念。二度と戻りません。残念ね。それが事実。受け入れるべき事実。本の力はその内容です。内容とは事実です。事実を吟味する過程で、未来のことが分かるかもしれません。何が来るかを考える過程で、私たちは本をよりどころにするんです。それによってそれがどこから来たのか分かるわけです。例えば帳簿によればあなたはもうしばらくの間、つまり19-6-65に雇用契約期間が切れています。そうですね、サクソンさん。あなたは契約が切れました。(注の5：「^(J u n e t e e n t h)ジューンティーンズ」⁽⁷⁾は1865年の6月19日のこと。リンカーンの奴隷解放宣言から何か月も経っていたが、テキサス州の奴隷が自由になったことを聞いた日である) あなたは契約が切れたのです。賃貸期間終了。19-6-65で期限切れ。更新なし。

アレサ：すっすっ？

ミス・フェイス：あなたは契約が切れました。よろしいでしょうか。

アレサ：はい、分かりました。

ミス・フェイス：そうなんです。19-6-65。それが事実です。お客様がいるようです。玄関の階段のところでお待ちよ。

アレサ：いやあ。

ミス・フェイス：さあさ。32.5の19-6-65ですよ。はい。開けて。はい。閉じて！

アレサ：で、どうやって挨拶すればいいんですかね。ニコッと笑えばいいでしょうか。……口を開けるんですよ。

ミス・フェイス：もう契約が切れます。そういうことです。それが事実。1807年の修正条項⁽⁸⁾です、サクソンさん。事実。楽にお座りください。ブザーで呼びますからね。

(ブザー音)

E.

ドリーム・タイム：チャールズが登場する。

チャールズ：アレサ、「ゆりかごを揺らす手」のことを知っているだろう。

アレサ：いいえ。

チャールズ：なんだって？

アレサ：知りませんです。いえ、チャールズ旦那様。知らんです。

チャールズ：そうかそうか。「旦那様。知らんです。」か。そうかそうか。それならそれでいい。ではこれは？「手中の一羽はやぶの中の二羽の値打ちがある—」

アレサ：チャールズ旦那様。お子さんたちのご飯の時間です。

チャールズ：—そうか。そうしてくれ。おお。これはなかなか良い写真になるぞ。子どもたちの素晴らしい思い出になる。思い出は大切なものだ。知らんのか。考えを整理してくれる。私たちが何者であるかを思い出させてくれるのが、記憶だ。記憶がなければ私たちは何者でもない。誰かわからないままアイデンティティがないまようろつくってことになる。君が私のお手伝いということも分からなくなる。そしたら君はただの街の野蛮人ということになるよ。私だって自分が主人だということを忘れてしまうさ。そうなったらカオスだよ。どこから来たのかわからないというのでは大変なことになってしまうよ。かわいいアングロとブランカも—ねえ、存在すらしないことになってしまうよ。そしたらパパはどうしようかってことになる。正確な記録がなければカオスだよ。カオス。それは困るよね。カオスはわかるよね。

アレサ：旦那様。知らんです。

チャールズ：ひーっひーっひーっ！おっとと。知らぬが仏だね！知らぬが仏と言うんだよ—無知な人たちにとってはね—無知な人たちに耐えていかなければならない私たちにとって無知はおめでたくはないんだけどね。そうは思わんかね。

アレサ：はい、旦那様。

チャールズ：「はい旦那様。はい旦那様。」か。ひーっひーっひーっ面白いね。私に見えるように子ど

もたちを持ち上げてくれ。そおおおだ。後にこれを思い出したらどういうことだったかが分かるんだ。持ち上げて。そう。そおおお、それでいい。笑って。笑いなさい！ん？にっこりいいー

(カメラがカチカチする音)

F.

カメラの撮影音がドアのブザーの音に変わる。

アングロ：すごい！

ブランカ：すごい！

ミス・フェイス：こちらの本に約束して書いてあります通り、大変良く光が入り、北向きですので陸地も海も望めますー

アングロ：すごくいい！

ブランカ：ほんとに素敵！ブランカ・サクソンー

アングロ：アングロ・サクソン。

アレサ：私はサクソン夫人です。

ミス・フェイス：19-6-65に契約期限が切れました。

アングロ：大変気に入った。

ブランカ：私たち新婚です。

アレサ：私はサクソン夫人です。

ブランカ：新婚です新婚です。ほやほやの！

アングロ：ほんとにほやほや。

ミス・フェイス：ほんとにいいですね。

ブランカ：ブランカとアングロ・サクソンです。

アレサ：すっ！と、ですから私はー

ミス・フェイス：ほんとに素晴らしい。32.5の19-6-65。こちらに約束して書かれている通り。

ブランカ：本を読みました。赤字で書いてある本です。準備趣意書⁽⁹⁾。隅から隅まで読みました！目が赤くなりました。

アングロ：私たちはいろいろ読むんです。

アレサ：チャールズさんって聞いたことがありますか？本に書かれているんです……

ミス・フェイス：ウォークインクローゼットは5か所あります。もちろんまだ設置されていませんが。

ブランカ：この人もこの物件についてくるんですか？

ミス・フェイス：この方はもうすぐ出て行きます。

ブランカ：この人、歯が全然ないんですね。

アングロ：この人どこかで見たことあるような。

ブランカ：アングロ・サクソン！ーもうこの人いつもこうなんです。会った時もどこかで前に会った

ことないかって言うんですよ。でも会ってたんです。修正しなきゃならなかったんだよね。

ミス・フェイス：クローゼットはここ、ここ、あそこあちらに。あれを退かして場所を作りましょう。

アングロ：とこのように本に書かれています。修正2.1条。あの条項は前から好きだ。オープンで色々解釈できる。

ミス・フェイス：もちろん、窓も入れましょう。

ブランカ：入れないとね。

アングロ：あのタンスを退かすか。

ミス・フェイス：タンスはお飾りでしょう。

アレサ：お飾りか。

ブランカ：バスルームは欲しいかもしれません。大家族を作る予定ですから。

アレサ：家族。アタシにも家族があった。家族に捨てられた。

アングロ：子供たちに会ってくれ。アングロとブランカだ。おとなしくていい子たちなんだ。話しかけられなければ動かないし、動けと言うまで動かないからね。

ミス・フェイス：ここをバスルームにしようと思っています。

アングロ：僕たちが会ったのはどこだと思います？

ブランカ：一目惚れ。

ミス・フェイス：大家族にも十分な広さです。

アングロ：出会った所はどこでしょう！

ミス・フェイス：よろしければこのキッチンをひっぺがしてスケルトンにしたらもっと広いです。

アレサ：チャールズが会わせてくれた。

アングロ：おいしい。ブランカを知ってたと言ったでしょう。

ミス・フェイス：タンスは入れて、それを剥いでまた入れましょう。よろしければ。

ブランカ：考えて！

アングロ：あのタンスの面倒を見る人が必要だな。お手伝いが必要だ。

アレサ：昔家族を育てました。男の子を一人。女の子を一人。子どもたちをしつけ、風呂に入れました。赤ちゃんを風呂に入れました。二人入れました。

ブランカ：私たち幼なじみの恋人。ちっちゃいころから。ずっと前に出会ったの。子宮の中よ。

アングロ：手が必要だな。

ブランカ：というか双子なの！

アレサ：それは本では禁じられています。

アングロ：親族になったの。結婚で。ちゃんと合法的よ。^{book}規則通り。

ミス・フェイス：タンスは浴室の近くに置きましょう。浴室に入ればもっと広がります。

アレサ：あたしの^{book}本とは違うんですね。

アングロ：私たち同じ名字！サクソン！ブランカ・サクソン—

ブランカ：アングロ・サクソン。ブランカとアングロ・サクソン—

アレサ：私はサクソン夫人です。はじめましてです。

アングロ：サクソンさんね、お手伝いが必要なんだよね。

ブランカ：子どもを作るの。子どもを繁殖するの。二人産んだけど、もっと繁殖する。

ミス・フェイス：一皮剥ける大掃除の一環です…

アレサ：チャールズのこと何も知らないんでしょうね。チャールズはあたしのご主人だったです。
チャールズ・サクソンさんです。

ミス・フェイス：古きは新しきに道を進んで譲らなければなりません。蛇が新しいスーツに脱皮するように。新しきが入ってきたら喜んで彼らに道を空けます。抜歯しなかったら、彼らはどこへ行くんですか。

アングロ：あなた、行くところがないようですが。家には手が必要で。見たところ頑丈な使用人タイプだ。すり足で歩きながらお給仕できるだろう。家の子どもの乳母はできる？君のようなお手伝いは教科書通りだよ。道理にかなって道理になる。記録通りだよ。昔やってたことにぴったりだろう。私が主人になる。ブランカが奥様だ。若旦那様と奥様だ。うん、そうだ。ニコッと笑ってみて。

ミス・フェイス：彼女は出て行くことになっています。

アングロ：ニコッと笑ってみて！

ブランカ：ねえ、歯がないよ。

アレサ：チャールズ旦那様が戻られたです！あそこで手を振っているのが見えまし—いえ—交通整理かな。左右左右左—わたしのことちゃんと覚えていて下すった右。ちゃんと忘れなすった。左右左—わたしに会いたがってます。

ミス・フェイス：チャールズは死んです。

アングロ：と、本にあります。

アレサ：修正してください。チャールズ旦那様はそこの道にいます。その下の道のところに。

ミス・フェイス：私の本にはないわ。

ブランカ：私たちの本は違うのよ。

アレサ：うちの本と違うんです。修正して下さい。荷作りします。私が彼の元を去ったんです。行かなきゃならなかったんです。二人も面倒を見る赤ん坊がいて。

アングロ：この人どこかで知っているなあ。

アレサ：行かなきゃならなかったです。あの人が私に名前を下すった。修正してください。

ブランカ：私たち同じ名前ね。

アングロ：「この人どこかで知ってる！」ニコッと笑えないのは気の毒だ。

アレサ：行かなきゃならなかったです。行かなきゃなりません。修正してください。シスター・フェイス、チャールズが戻りました。

ミス・フェイス：お手伝いが必要なんですね。彼女を付けましょう。台所の下でも生活できますから。

去る者日々に疎し。見えないものは忘れられる。

ブランカ：この人、歯がない。

アングロ：子どもに悪い手本だな。修正しなさい。

アレサ：ミス・フェイス？修正して。チャールズが待って—

ミス・フェイス：チャールズは死んでる！二度と戻らない。そう書いて—

アレサ：書類上！書類上って！

ブランカ：事実に基づいて、ねえ！この人子どもたちに悪い影響を及ぼすわ。修正しなさい。

ミス・フェイス：修正。

アレサ：900万人がただ消失した！⁽¹⁰⁾それが事実です!!

ブランカ：600万人。6百でしょ！フェイスさん？修正！もう一人子供が欲しいのね。今から作り始めたいの！

アレサ：あの人たちは私たちを故郷から引きずり出した！私たちの洋服を盗んで！

ミス・フェイス：修正！修正13条⁽¹¹⁾。サクソンさん、あなたは記録から抜かれました。自由放免。行ってよし。

アングロ：自由放免。行きなさい。

ミス・フェイス：行って。

ブランカ：行って。

アレサ：ああ。どう挨拶する。挨拶をこう—

ブランカ：行けてば！子どもたち、手を振って！そう。そう！お行儀がとってもいいわね。

アングロ：妻。子ども。良い眺めじゃないか。それにブザーだ！作動する！

(ブザー音)

G.

ドリーム・タイム：チャールズが登場する。

チャールズ：歯を抜いてしまったね、最後の自己証明を失ってしまったんだよ。すべての痕跡が無くなった。残ったのは推測だけだ。これで誰が誰だかわからない。お前の名前も分らない。めちゃくちゃになる。カオスだ。ゆがめられて。事実に合うように真実は捻じ曲げられるだろう。

アレサ：ゆりかごを揺らす手のご存じでしょう？

チャールズ：私はゆりかごを揺らさなかったから。

アレサ：ことわざがどう続くかご存じでしょう？

チャールズ：「揺らす手は—世界を支配する」だが私は揺らさなかったって—

アレサ：揺らしたっておっしゃっても気にやしませんです、旦那様。ここでは^歴^史^的^な^修^正⁽¹²⁾をやっているんです。いいですか。ニコツとしてくださいよ。記録ですから大きく笑ってください。

チャールズ：歴史的だ。「歴史的な修正」だよ。

アレサ：旦那様、笑って。

チャールズ：どこへ行くんだ、アレサ。

アレサ：あたし一番高いところの横に場所を陣取ろうと思って。

チャールズ：北の方だな。

アレサ：そうです。

チャールズ：あっちは寒いぞ。

アレサ：チャールズさん、笑って！そうそう！

チャールズ：カオスだ！カオスって分かるか？！物事が規則に従うのを止めることだ—

アレサ：笑って。笑って、チャールズ。笑って！素敵な歯を見せて。良いわ。

チャールズ：子どもたちが笑ってくれないんだよ、アレサさん。

アレサ：あなたが笑うのです。

チャールズ：子どもたちが泣いているんだ、アレサさん。

アレサ：笑って！笑って！笑うの！！ほら。良いかんじ。

チャールズ：子どもたちが泣いているよ。

アレサ：どうでもいいんですよ。まったくどうでもいいことなんです。あなたは泣いていると言うけど、私からすれば笑っています。この写真は私のスクラップブック用。ガラクタを集めた私のスクラップ本。笑っても笑わなくてもあたしはあなたを覚えています。あなたの笑いを覚えています。

(カメラの撮影音が大きくなる。徐々に暗転)

第三王国（繰り返し）

監視者：何をしている。

自分たちを見る者：吐いて、いる。

親類を見る者：親類を見る者が言う。

サメを見る者：サメを見る者が言う。

自分たちを見る者：自分たちを見る者が言う。

魂を見る者：魂を見る者が言う。

監視者：監視者が言う。

親類を見る者：と親類を見る者が言う。

サメを見る者：というサメを見る者が言う。

自分たちを見る者：と自分たちを見る者が言うという。

魂を見る者：という魂を見る者が言うという。

監視者：と監視者は言う。

親類を見る者：今夜自分の故郷の夢を見る。私の故郷は自分が行ったことのあるどの場所とも違う。

魂を見る者：自分たちがあの時どうだったかについての話。

監視者：叫んで目が覚めたんだ。

サメを見る者：そうになったらどうなるか……

監視者：叫び声で目が覚めたんだ。

自分たちを見る者：で、こうなった今どうなの。

皆：叫び声で目が覚めたんだ。こっちも起こされた。

監視者：これを付けな。頭の周りと目の上にさ。よく眠れるよ。ほら？私みたいに。頭の周りと目の上にさ。良く見えるようになるからさ。

親類を見る者、自分たちを見る者、サメを見る者：がああああ。がああああ。

魂を見る者：どうすれば順応できる？どうすれば私は適応できるのか？

自分たちを見る者：白骨男が来たお前を連れてった。お前海の中に落ちる。

親類を見る者：飛び降りるべきかな。飛び降りるべきかな？？飛び降りるべきかな飛び降りるべきかなどうか。

サメを見る者：僕を飲んだ魚のことを思う。

サメを見る者と親類を見る者：そして、その魚になった自分を想像して、その魚がサメになっているところを想像して、それでそのサメが陸の形になっているところを想像する。

皆：あああ。

魂を見る者：それで今まで行ったことが全くないようなところに自分がなっているところ。

サメを見る者と親類を見る者：そしたらもう私は自分じゃなくなって、魚でもなくなった。新しい「もう一人の自分」は中間の空間によってつくられた第三の自分。

皆：あああ。

親類を見る者：自ら起き上がり波間から立ち上がり「もう一人の自分」が立っていた。そして自分の「もう一人の自分」は自分と新しい自分の間に立って海の下に戻って行った。

自分たちを見る者：やだあああああ。

サメを見る者：私が私に手を振って私に自分が手を振って私にもう一人の自分が手を振る。

自分たちを見る者：白骨男が来たお前を連れてった。お前海の中に落ちる……

親類を見る者：なあ、愛のために何をすればいいのかな。

監視者：頭の周りと目の上に。こんな切れ端の布でも巻くと良く見える。

サメを見る者：裸の黒人さんたち……

自分たちを見る者：この船で海岸に連れてこられた。

魂を見る者：空は真っ青だった！

親類を見る者：すっ！

サメを見る者：食べろ食べろ食べろ頼む食べてくれ。

魂を見る者：空は真っ青だった！

魂を見る者：すっ！

サメを見る者：食べろ食べろ食べろ頼む食べてくれ。食べろ食べろ食べろ頼む食べてくれ。

監視者：頭の周りと目の上に。

自分たちを見る者：この船で海岸に連れてこられた。

魂を見る者：でも私たちは船に乗ってなかった！

自分たちを見る者：でも乗ってたのさ。乗ってたのさ、のさのさ。

監視者：2つの崖がある。1つの言葉の世界が割れて2つの崖になった。片方の言葉の世界は崩れ落ちて2つの世界とその間に空間を作った。この2つの言葉の世界に第三王国が刻まれている。

親類を見る者：飛び降りるべきかな飛び降りるべきかどうか。

自分たちを見る者：帰ってきて帰ってきて遅くまで外にいちゃだめ。

親類を見る者：私は向こうの崖にいる自分に叫んだ。

魂を見る者：黒よ！くろだ！くろだよくろだよ！

監視者：お前たちが見ているのは魂だ。ガラス底の船の9つ目の不思議。飲み込んで耐えるんだ。そうしなければ棄てられる。

魂を見る者：うわ！うわ！

親類を見る者：この船で海岸に連れてこられた。

自分たちを見る者：帰ってきて帰ってきて帰ってきて帰ってきて。

魂を見る者：自分たちがあの時どうだったか、そうなったらどうなるか、そうである今どうなのかについての話。

自分たちを見る者：どうなのか……

親類を見る者：見える限り手を振っていいって言ったよね。まだ見えるんだ。

監視者：なら、振りな。

監視者、親類を見る者、魂を見る者、サメを見る者、自分たちを見る者：がああああ。がああああ。

サメを見る者：これは暗号の言葉で話してるんだよ。秘密のサインと秘密のシンボルだね。

親類を見る者：手を振って振って振って振って。振って振って振って振って。

サメを見る者：飛び降りるべきかな。飛び降りるべきかどうか。飛び降りるべきかな飛び降りるべきかどうか。

親類を見る者：

振って振って振って振って。

振って振って

振って振って

サメを見る者：

飛び降りるべきかな。飛び降りるべきかどうか。

飛び降りるべきかな飛び降りるべきかな

飛び降りるべきかどうか。

自分たちを見る者：なあ、愛のために何ができるかな。

魂を見る者：揺らせ。船を。揺らせ。船を。

親類を見る者：	魂を見る者：	サメを見る者：	自分たちを見る者：
振って振って	揺らせ。船を	飛び降りるべきか	空は真っ青
振って	揺らせ	飛び降りるべきか	だった！
振って	船を。	どうか。	すっ！
振って振って。	揺らせ。船を	飛び降りるべきか	空は
振って振って	揺らせ。	飛び降りるべきか	真っ青
振って振って	船を。	どうか。	だった！

監視者：おーい。

親類を見る者：	魂を見る者：	サメを見る者：	自分たちを見る者：
振って振って	揺らせ。船を。	飛び降りるべきか	空は
振って	揺らせ。	飛び降りか	真っ青
振って	船を。	どうか。	だった！
			すっ。
振って振って	揺らせ。船を。	飛び降りるべきか	空は
振って振って	揺らせ。	飛び降りか	真っ青
振って振って	船を。	どうか。	だった！

監視者：おーい。

親類を見る者，魂を見る者，サメを見る者，自分たちを見る者，監視者：がああああ。がああああ。

監視者：あと一日やそこらで「到着！」と叫ぶぞ。そしたらすべてがおしまいだ。あと一日やそこらで「到着！」と叫ぶぞ。そしたらこんなおしまいだ。

親類を見る者，魂を見る者，サメを見る者，自分たちを見る者：がああああ。がああああ。

監視者：何をしてる。何してるんだ。なにをしてる。いま何をしているんだ？？？！

親類を見る者：一。一。吐き，いや身投げ，いえ投げキッスです。

注

- (1) 原文は Hole house full. パークス作品に頻出するブラックジョークの一つ。穴 (hole) と全体 (whole) が同じ発音であることから、とくに黒人側から見たアメリカ社会の欠陥を喩える表現で、全体について述べているのに穴が開いており、穴について述べていると全体のことを伝えることになるという矛盾するが真実をつく逆説。舞台では文字表記は見えないため、「家全体が一杯になる」とも、「穴の開いた家が満杯になる」とも聞こえ、full house からの連想から「穴が満員 (いっぱい)」という意味もくみ取れる。ここではアリスがパーティーの準備をしているようにも見えるが、次第に奴隷船に積む奴隷の数を計算していることが明らかになる。
- (2) 原文でもピリオドがないまま文章が続く。セリフを話者の意識の流れにまかせて進めることが作品の現実感を高めている。
- (3) 原文のまま。パークスの作品では、「歴史」は再検討されるべき概念であるため、記録された歴史と、体験として記憶に残された歴史とは区別される。ここでは歴史記述であることを強調するためにミス・フェイスに「注1」と言わせている。
- (4) Miss Faith の名称は「信頼」「信用」という意味が込められているだけに皮肉である。
- (5) この部分はアレサの意識の流れに従うため、文脈が錯綜する。奴隷船に関する数字とアレサの抜歯後の穴のサイズの両方が入り乱れる形で語られている。ミス・フェイスは黒人を管理する側の人間 (白人) で、歴史書の代弁者、アレサの抜歯の看護師、奴隷船の収容人数を管理する管理官の役割を果たす。
- (6) 住宅・地域再生課が出す一般的な書類
- (7) June と Nineteenth の混成語。1863年1月1日に発令された奴隷解放宣言を、テキサス州が1865年6月19日に批准したことを記念して行われる、アフリカ系アメリカ人による祝い。
- (8) 1807年の3月、イギリスの奴隷貿易が廃止された。
- (9) 準備趣意書 (red herring)。共同住宅の販売において前もって配られる、特定の物件の販売について説明した冊子。
- (10) 原文のまま。推定9百万人のアフリカ人がアフリカから奴隷として連行された。(Rawley, *The Transatlantic Slave Trade*) 推定6百万人のユダヤ人が第二次世界大戦の強制収容所で殺された。
- (11) 修正案13条はアメリカで奴隷制を廃止したもの。
- (12) 原文の histironical は history と ironical を合わせた造語。

参考文献

- Gussow, Mel. "Review/Theater; Identity Loss in 'Imperceptible Mutabilities'" Sept. 20, 1989. <http://www.nytimes.com/1989/09/20/theater/review-theater-identity-loss-in-imperceptible-mutabilities.html>
- Parks, Suzan-Lori. "Imperceptible Mutabilities in the Third Kingdom." 1989. *The America Play and Other Works*. New York: Theatre Communications Group, 2005.